

平成27年度の運営総括及び来期の課題

味方児童館

1. 乳幼児事業

(1) 総括

①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っています。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等です。『ちびっこ広場』に参加することを楽しみに来館する親子が多く、みんなで歌ったり体操したりする楽しさを共有しています。

昨年まで頻りに遊びに来ていた幼児の半数が保育園や幼稚園に入園し、今年度も新しい顔ぶれでイベントを行ってきました。味方地域の方だけでなく月潟地域・根岸地域・白根地域、区外・市外・県外からの来館も増え、利用者からの紹介や検診、育児相談で児童館を知り来館される方が多く、味方児童館の周知の広がりを感じました。

今年度は特に乳児の来館が多かったため、昨年度同様に音楽をふんだんに取り入れ、リトミックを中心とした、より低年齢向けの内容を意識してちびっこ広場を行ってきました。

また、今年度も味方地区の親子サークル『りとるくらぶ』との共催で『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』などの季節行事を行うことができました。これらの行事は昼食が食べられるということもあり、とても人気のあるイベントです。食事の提供は、地域の食生活改善推進委員がボランティアで参加してくださっています。親子がそろって安心して食事ができるよう細かな配慮をしてくださるので、みなさんで楽しく食事をすることができています。

祖父母が孫を連れて来館することも多く、祖母同士、祖母と母親などの異世代の交流も見られるようになり、地域で子育てするという環境ができ上がってきています。

今後も利用者のニーズをしっかりと捉え、より楽しい、居心地の良い児童館を目指して管理運営を行っていきたいと思います。

②つくって遊ぼう

毎月第2週水曜日、木曜日、金曜日に親子と一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行いました。子どもの月齢に合わせた季節の工作や、手作りおもちゃなど親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきました。この行事を楽しみに毎回参加してくれる親子もいます。

③ほっとティータイム

毎月第4週水曜日の午前中、ちびっこ広場の後に保護者向け、乳幼児向けの飲み物を提供する『ほっとティータイム』を行っています。味方地区親子サークル『りとるくらぶ』のメンバーも『ほっとティータイム』の日が活動日になってたくさん参加しています。また、ほっとティータイムに参加することを目的に来館する乳幼児親子のグループもあります。飲み物があることで保護者同士が交流しやすく、保護者の友だち作りの場になっています。日頃育児に追われている保護者の方が「ほっ」と、ひと息ついて、

育児ストレスを発散できる場所になればと企画して始めた効果が表れてきているように感じます。

④ママのためのリフレッシュタイム

平成 24 年度から、子育てを頑張っている母親（祖母）にリフレッシュしてほしいと考え始めた事業です。昨年度同様に 5 回、保護者の方が楽しめてリフレッシュできるものを企画しました。4 月には、名称を『親子のためのリフレッシュタイム』とし、南区で乳幼児親子から人気の高い『ぽこあぽこ』さんをお招きして、親子でふれあえる音楽遊びのミニコンサートを行いました。

また、保護者の方にアンケートをとったところ、「リラックスしたい」、「マッサージをしてもらいたい」などの回答が多くありました。そこで疲労回復・リラックスするために足つぼマッサージを 3 回行いました。日頃の育児で溜まったこりや疲れをほぐしてもらった母親達からはとてもすっきりとした表情が窺え、「気持ちよかった」、「また参加したい」などの声が多く聞かれました。12 月には、華道の師範の資格を持つ職員を講師としたフラワーアレンジを行いました。参加した母親達からは、「本格的にお花を習っている気分になった」、「きれいなお花を生けることで心が癒された」などの意見をいただき、とても好評でした。心と体をリフレッシュして、毎日の子育てをより楽しめるような企画を今後も考えていきたいと思っています。来年度も年に 5 回開催する予定です。

⑤しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオウエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2 歳の子どもの母親対象に支援を行っています。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽にしゃべったり育児の悩みを相談し合うのが目的のイベントです。話しやすい環境づくりをするためにハンドトリートメントやお茶、お菓子も用意し、予約なしで気軽に遊びに来られるようにしています。

5 月のしゃべろっとでは、新たに『心とからだを整えるママのためのプチヨガ』と称し、講師を招いてヨガを取り入れたしゃべろっとを開催しました。『ママのためのリフレッシュタイム』で行ったアンケートでも、「ヨガがしたい」との意見が多数寄せられていたので、そうした要望を汲み取る事ができたと思っています。9 月、3 月には『親子ふれあい遊び』として、ピアノ演奏付きの絵本の朗読や子守唄、昔遊びを取り入れた内容で行いました。参加した母親からは「絵本とピアノのコラボに感動し涙が出た」、「子どもが産まれた時のことを思い出した」などの意見をいただきました。

『子育てオウエンジャー☆みなみ』のメンバーは、地域の主任児童員の方が担っています。味方地区には、味方児童館の存在を知らない方や、知っていてもなかなか児童館へ一歩踏み出せない方がいらっしゃるようです。そこで、地域の方と協力し、保護者が孤立しない、孤立させないために児童館として保護者に向けてのケアを今後も続けていきたいと思っています。来年度も年に 6 回行う予定です。

⑥BP 講座

2～5 か月の第 1 子とその母親を対象とした、初めての育児の学び、親子の絆作り、仲間作りを目的とした全 4 回コースの BP 講座は、前年度に引き続き、味方児童館では

2回目の実施となりました。15組の親子が参加し、育児の悩みや喜びを話し合い、学び合って知識を深めました。第1回目には、初めて乳児と外出したという母親も多く、不安で緊張している人もいましたが、回を重ねるごとに表情が柔らかくなっていきました。講座では他の母親の話に耳を傾けたり、積極的に自分の意見や気づきを話し合うことで、悩みや不安が解消、軽減された人も多くいたようでした。子ども達の月齢が皆近いという事で共感することが多く、母親同士の関係も深まりました。講座が終了した現在では、そのまま継続して児童館を利用し、様々なイベントに参加してくれている母親も多くいます。BP講座参加者達は月1回程度のペースで集まり、子育て支援施設などを利用し交流を深めています。

⑥就園児親子の利用数の増加

今年度は就園児親子の来館数が非常に増えました。主に平日の夕方、幼稚園や保育園を終えてからの利用が目立って増加しました。園から帰ってきてもまだまだ遊び足りず、夕飯前のもうひと遊びといった様子で多数来館します。そのほとんどが、未就園児だった頃に児童館を頻繁に利用してくれていた親子です。未就園児期から幼児期、小学生期まで、それぞれ利用時間帯や遊び方を変えながら、継続して利用者となっている流れができてきているのを、開館から丸7年経ち実感しています。

(2) 来期の課題

①より月齢に応じた行事内容の充実

今年度は『ちびっこ広場』に参加する乳幼児の年齢層が例年よりも低かったと思います。1歳に満たない乳児が多かったことで感じたのは、より年齢に応じた乳幼児行事の内容の充実を図ることでした。ただでさえ成長の度合いが大きく違う乳幼児が、同じイベントに参加するのは児童館の大きな魅力であり、難しいところでもあります。職員のスキルアップを目指し、臨機応変に様々な月齢の子ども達を楽しませることができるよう企画・運営を意識的にしていきたいと思います。

②子育て支援事業・講座の充実

今年度好評だった『育児講座』や『しゃべろっと』、『ママのためのリフレッシュタイム』などの継続と共に、日々のストレスや悩みを軽減、解消できるような講座やイベントの企画を考えていきたいです。

講座・行事を通じて、子育ての不安を少しでも取り除き、前向きに子育てをしていけるような支援に繋がっていきたいと思います。そのためには日頃から来館する乳幼児親子とのコミュニケーションをより大切に、信頼関係を築いていくこと、常にアンテナを張り母親達の声拾い上げ、どこにニーズがあるのかを見極めることが児童館の役割と考えます。地域や関係機関との連携を深め、孤立して悩む親をなくせるよう、できることから努めていきたいと思います。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度は低学年の利用が多かったように感じます。学校で児童館に行く約束をして友達同士で集まるという流れができていたようで、毎日のように遊戯室で元気にドッジボ

ールやおにごっこをして遊ぶ様子が見られました。また、4、5年生といった高学年になると、おしゃべりを楽しむ、図書室で宿題をする、読書をして過ごすといったように、学年が上がるにつれ利用の仕方も少しずつ変わっていているようでした。

今年度特に印象的だったのは、小学生と乳幼児親子の交流が日常的に見られたことです。小学生達が自ら乳幼児の遊び相手を申し出て、乳幼児の母親達も快くそれを受け入れ、他愛ないおしゃべりをしながらとても楽しそうに交流していました。遊びに来るたびに、乳幼児は小学生を求め、小学生の方も乳幼児親子に会えた日は喜んで積極的に交流をし、双方に良い影響を与えていました。これは、0～18歳までの児童を対象としている児童館の最大の長所だと感じています。今後もこの多世代交流の小さな芽を大切に、安心し合える関係が継続するよう見守っていきたいと思います。

今年度の小学生向け行事は、毎週火曜日に行っている『なかよし広場』を軸に、『つくって遊ぼう』などの工作行事と、月に一回程度ドッジボール大会やオセロ大会などの行事を行いました。また、地域の方々からの要望を受け、今年度新たに『移動児童館』として『味方ひまわりクラブ』に伺い、カプラでのかまくら作りやボディパーカッションなどを子ども達と一緒に行いました。

初年度から【子どもたちと一緒に作る児童館】を目標として掲げ、意識的に児童館運営を行ってきましたが、7年目となり徐々に味方児童館ならではの色がでてきているように感じます。

毎年恒例となっているハロウィンパーティーでは、老人デイサービスセンター味方を訪れ、ダンスや歌の披露、昔遊びをして利用者と多世代交流をしてきました。出し物を発表するために、自主練習や全体練習を積極的に行いました。また、今年度はコミュニティ協議会主催の敬老会に、小学生が参加し、地域の方々の前でダンスを披露しました。その際の衣装や小物も自分達で意見を出し合い、デザインし、工夫して納得のいくものを作り上げました。子どもたちの中で、“自ら行う”という気持ちが徐々に芽生えてきていると感じます。各行事後の片付けや掃除を積極的に手伝うことも増え、“自分達の使う児童館”として大切にしてくれている様子も見受けられます。

今後も子ども達の気持ちに添いながら、一緒に楽しい児童館を作りあげていきたいと思ひます。また、地域に根差した児童館を築くために地域との関係を大切にしていきたいと考えます。運営協議会には、味方地区コミュニティ協議会をはじめとする地元の有識者の方たちからも児童館運営に携わっていただき、『なつまつり』、『ふゆまつり』といった大きな行事で活動をサポートしていただきました。

来年度も、全ての子どもたちが健やかに成長出来るように全力でサポートしていきたいと思ひます。

(2) 来期の課題

①移動児童館の実施

今年度、児童館運営協議会において「学区の端の方に住んでいてなかなか児童館まで足を運べない子ども達にも児童館の良さを知ってもらいたい」という意見を受け、初の移動児童館の実施という試みに挑戦しました。味方ひまわりクラブで実施したところ、子ども達もひまわりクラブ職員の方々からも大変好評でした。これをきっかけに、来年度は味方ひまわりクラブだけでなく、児童館から離れた西白根地区や七穂地区の公民館などで移動児童館を行いたいと思ひています。まだ児童館に遊びに来たことのない子ど

も達、来たくてもなかなか来館できない子ども達に、児童館を知ってもらい、「児童館って楽しいんだ」と感じてもらうきっかけになればと思っています。そのためには、まずは地域の方々や学校と現状を話し合ったり、協力をしてもらいながら密に連携を深めていくことが重要と感じます。また、日々の活動や子ども会議、意見 BOX などから子ども達のやりたいこと、遊びたいことなどの意見を大切にしながら計画を練っていきたいと思います。

3. 中・高生事業

(1) 総括

今年度も『クリスマス会』に味方中学校の吹奏楽部を招き、演奏会を開きました。毎年恒例の演奏会は、幼児、小学生にとっては間近で生の演奏を鑑賞でき、また、中学生にとっては人前で演奏する練習の場となりお互いに良い体験ができました。

今年度も昨年度に引き続き、夏休みに中高生イベント『中高生夕涼み会』を行いました。普段から来館していた中学生が主体となりポスター作成や夕涼み会の内容を考え、射的、型抜き、ヨーヨーつり、かき氷、腕相撲大会などのイベントを企画しました。8名の参加があり、子ども達はとても喜んでいました。来年度も子ども達と企画していきたいと思います。

今年度はまつり、クリスマス会の他にイラストコンテスト作品出品、オセロ大会の参加がありました。特にまつりでは、お客さんとして参加するだけでなく、遊びブースのスタッフボランティアとして大活躍してくれました。

今年度は、昨年度よりも大幅に中学生の利用が増えました。時間に余裕ができた時や、部活が休みのわずかな合間を見つけては来館し、学校生活や友達の話、日頃感じていることなどを職員に報告している様子や、小学生らと遊んであげる姿が度々見られました。中学生達にとって児童館は、軽い運動やおしゃべりを楽しみ、日常生活のストレス発散やちょっとした息抜きをする場となっているようです。また今年度に入り、小数ではありますが高校生の来館もありました。開館から7年を経て、ようやく高校生の来館が増えたことはとても嬉しいことです。高校生が児童館に足を運んでくれるようになった拝啓として、小学生の頃、日々遊びに来て、自分たちの居場所として児童館で遊んだ楽しい思い出が活きているようです。来館してくれる中高生とコミュニケーションをとって交流を深め、子ども達にとっての居心地の良い居場所の一つとなるよう、情報を発信し、周知していきたいと思います。

(2) 来期の課題

① 中高生にとって身近な児童館をつくる

中高生の来館する機会は少しずつ増えました。児童館が中高生に対して何が出来るのかを追及すると同時に、成長していく子ども達にとって、いつでも気軽に立ち寄れるような、入ると「ほっ」と安心できるような存在の児童館であり続けられるよう、明るく入りやすい雰囲気の子どもの維持に努めたいと考えています。また、中学校の地域コーディネーター『おむすびクラブ』との連携を密にし、まつりをはじめとした行事ボランティアを積極的に募集していただけるよう働きかけます。児童館に携わるきっかけを作り、少しでも児童館に興味を持ってもらい、地域の子どもたちを共に育てていただければと考えています。

3. 地域との連携事業

①味方地区公民館との連携事業

- ・人形劇（7月）
- ・育児講座（6月）
- ・科学実験（9月）
- ・食育（6月）

②味方小学校、おむすびクラブとの連携事業

- ・校外学習
- ・いきいき子ども塾
- ・「自学おうえん隊」

③味方中学校との連携

- ・吹奏楽部演奏会（12月）
- ・まつり子どもボランティア（7月、2月）

④ボランティアとの連携事業

- ・5周年なつまつり
- ・ちびっこクリスマス会
- ・ちびっこハロウィン
- ・ふゆまつり
- ・乳幼児行事・小学生クラブ（食育推進委員など）
- ・おはなし夢広場
- ・瓢箪、花植えなどのボランティアなど